



宇都宮市立図書館にある
日光社参と宇都宮城に関する本



◆**日光社参について**

『日本史の中の栃木 地域視点で歴史を見直す』

(栃木県歴史文化研究会／編 2013)【K200/ト】【213.2/ト】

大石学「日光社参の歴史的位罫」—国家的権威の創出と伝統化— (P103~198)

数多くの史料や文献から、日光社参が大きな国家的行事であったことを位置づける。社参が実施されるにあたって、全国的に出された規制や人馬負担、恩赦などがその壮大さを物語る。

『あなたの知らない栃木県の歴史』

(山本博文／監修 洋泉社 2013)【K200/ヤ】【213.2/ヤ】

本当に知りたかった栃木県の「古代～近代史」入門。魅力溢れる意外な栃木県の歴史をわかりやすく紹介。歴史の流れと、歴史上の人物、歴史的な大事件が「手軽」にわかる1冊。

『栃木県の歴史』

(阿部昭・橋本澄朗・千田孝明／著 山川出版社 2011)【K200/ア】【213.2/ア】

古代の下野、東国の戦乱と下野、産業と文化の発展、栃木県の成立と近代化など、原始時代から現代まで、栃木県民の立場から叙述。現代に立って過去の時代を振り返り、21世紀への指針を探る1冊。

『徳川家と日光東照宮〈保存版〉徳川家康公薨去400年記念』

(日光東照宮／監修 宝島社 2015)【K170/ニ】【175/ニ】

日光東照宮の公式ビジュアルガイドとして全社殿を紹介。5000を超える彫刻に秘められた江戸幕府の理念や、初代将軍家康の生涯、徳川家に仕えた男たちの仕事などを交え、聖地・日光を完全解説。

『とちぎの歴史街道 みちの世界へ』(栃木県立博物館／編 2005)【K682/ト】

タイトルの企画展の図録。日光社参に関しては主にP36~41で多くの史資料が紹介されている。社参で使われた小休所や宿泊所の絵図、行列の並び方や日光街道を行く行列の様子が描かれた絵画などがある。

『第6回企画展 日光参詣の道』(栃木県立博物館／編 1984)【K682/ト】

日光街道をはじめ例幣使街道、壬生通りなど、日光へ向かう道は数多くあり、将軍や大名から庶民にいたるまで、さまざまな参詣者があったことを紹介している。

『天保一四年日光山御参詣一件（稲生正光家文書）』

（坂戸市教育委員会 1994）【K220】

埼玉県坂戸市内に、江戸時代知行地を持っていた旗本稲生家の所蔵文書のうち、日光社参関係史料を整理、刊行したもの。最後の社参に際しての様々な動きが日記風に記されている。

◆日光社参と宇都宮城

『名城 宇都宮城 しろとまちの移り変わり』

（栃木県立博物館／編 2006）【K520/ト】

タイトルの企画展の図録。宇都宮城の絵図面、古文書、発掘調査で出土した遺物等、網羅的に史資料が集められている。日光社参とも密接な関係を持っていた城として紹介する。

『宇都宮城のあゆみ』

（宇都宮市教育委員会文化課 2007）【K210/ウ】

栃木日光社参に関しては、天保14年（1843）の12代将軍徳川家慶の最後の社参を中心に取り上げる。前年からの準備や行程、将軍の宿城として宇都宮城や城下町の果たした役割をまとめている。

『宇都宮城主戸田御家記 復刻版』

（松井恒太郎／編著 下野歴史学会／編 随想舎 1989）【K210.5】

昭和12年（1937）に編纂された、戸田家の伝記をまとめて復刻したもの。日光社参が実施されるにあたって、宇都宮藩戸田家がどのように対応したのか読み取ることができる。

『近世栃木の城と陣屋 改訂増補』

（杉浦昭博／著 随想舎 2011）【K520/ス】【521.8/ス】

縄張図をはじめ、情景図や配置図、写真を多用し、現地調査を踏まえた下野の近世城郭と陣屋を網羅。宇都宮城は略史、構造、遺構について書かれている。

『宇都宮御城内外絵図 宇都宮城本丸将軍家御泊城ノ節建物ノ図』

（宇都宮市教育委員会／編 1998）【K291/ウ】

「宇都宮城本丸将軍家御泊城ノ節建物ノ図」は12代将軍徳川家慶の日光社参に際して建てられたとされる御成御殿を描いたもの。

館内閲覧のみの資料も含まれています。

この他にも資料がありますので、図書館職員にお気軽にご相談ください。

宇都宮市立中央図書館

〒320-0845

宇都宮市明保野町7番57号

TEL : 028-636-0231 FAX : 028-639-0740

9:30~19:00（金曜休館）
